

創立四十周年を振り返り見て

同窓会長 佐々木 元彦

同窓の皆様にはご健勝のうちに新年をお迎えになり心よりおよろこび申し上げます。

さて、平成四年十一月十五日の名古屋国際ホテルの創立四十周年記念総会・祝賀会は盛会裏に終え、お世話になりました。これもひとえに会員の皆様の相互理解と信頼・ご協力があったればこそと痛感しております。また歴代校長を初め、恩師の先生方、現職の先生方のご臨席を賜り光栄の至りに存じました。もうあれから一年余りが過ぎ去り、時の速さを感じ入っているしだいです。

本来同窓会の総会は、昭和三十一年卒業を第一回として数え、昭和五十年、中国大飯店で二十周年、昭和五十五年名古屋公会堂で二十五周年、昭和六十年、名古屋国際ホテルで三十周年を機に、かねて学校側から要望のありました学校の創立記念の年度に合わせてほしいとの要望に對して、このときの総会で会員の皆様の承認をいただき、変則でありましたが七年後の平成四年、学校の「創立四十周年」と「記念総会」を行う事が、決定され実行されました。

今回事業を返りみますと、平成二年十二月に学校幹部並に同窓会三役とで、準備委員会を設立し、平成三年から同窓会役員会を開催し、学年

幹事、クラス幹事を含む実行委員会が出来、一ヶ年半にわたる準備作業でした。諸会合五十数回、役員各位のご尽力により一千時間余りを費やしました。

振り返れば、昭和二十八年四月に小学区制の熱田区民のみの一回生百五十名からはじまり、四十年後の現在、全日制・定時制合わせて1万六千余名となり、四十五周年総会には一万九千人になろうとしています。

同窓会を今後も大きく飛躍させる事業は、会員名簿の充実であります。名簿は五年ごとに作成する一年前から準備にかかりますが、会員の皆様の相互理解によって、情報を随時事務局へご連絡くださることが大切です。このことにより、無駄な経費と労力の削減になります。本会の固定収入源は、卒業時の終身入会費、一人五千円のみです。次回の総会では収入源の対応について、ご審議をお願いすることになるかと存じます。

念願の同窓会報の発行にあたり、今後より一層の内容充実のため、ご協力とご尽力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

最後に、熱田高校の限りなき発展と同窓の皆様のご多幸とご健闘を祈念しごあいさついたします。

平成六年正月元旦



新たな歩みを

校長 村本 邦夫

新年明けましておめでとうござい
ます。一万七千に達せんとする同窓
生の皆様に心から新年のご挨拶を申
し上げます。

赤松校長の後任でございます。何
とぞよろしくお願い致します。校門
あたりの桜も年経て大樹となりまし
た。その桜が爛漫として咲き競うこ
ろ着任致しました。あれから既に十
カ月となろうとされています。赴任し
て、佐々木同窓会長が実行委員長と
してとり行われました。「創立四十周
年記念式典」のビデオを見たり、記
念誌「四十年のあゆみ」などを読ん
だり致しました。そして、熱田高校
の歴史とそこに係わった人々とその
労苦、それにより築かれた輝かしい
伝統を知りました。

校長室には校誌「熱田」のバック
ナンバーが製本されすべて保存され
ています。その創刊号には開校記念
式に関するものがまとめられていま
す。そこには、「開校記念式の感想」
として五名の生徒の文が採録されて
います。最初は、寺島三郎氏のもの
です。第一期生としての使命と責任
を痛感し、本校発展の為に、後輩諸
君の為に全力を尽くすことを誓われ、
「来賓の殆どが、校舎設備を賞めら
れたが、中身の生徒まで及んだ人は、
一人も居られなかった。」と記し、生
徒が賞められるようにする為に我々
の責務は大きいと結んでみえます。

最後に、村井美智子氏のもの掲
載されております。当日、接待係を
勤められた氏は「暫くして祝賀会が
始まったらしく、拍手の音が聞こえ
てきました。私は心の中で『お祝い
下さい、私達の学校の発展のために』
と祈らずにはおれませんでした。」と
記してみえます。

小生と同じ年代の方々が、四十年
前に書かれたこれらの文章をここま
で読みきたって、感涙のため文字が
うるみ見えなくなりました。諸氏が
高校生であったところに抱かれた、熱
く純粋な本校の前途に対する思いや
祈りがひしひしと胸中に迫ってきた
からです。校誌から目をそらし顔を
あげました。すると、壁面に掲げら
れている初代の積木先生から十代赤
松先生に至る歴代校長の写真が目
に入りました。どの方も慈愛深い眼差
しで見下ろしていただくことができました。
すると、校誌と写真対してに「あり
がとうございました」とつぶやきな
がら、自然に頭が下がりました。

今年度は五十周年へ向けて新たに
歩み出す大切な最初の年です。同窓
生諸氏の息吹を生徒達にもぜひ伝え
たいものです。そして、同窓生の皆
様が真に母校と呼ぶにふさわしい熱
田高校にすべく、生徒・職員共々力
を尽くしていく所存でございます。
今後ともよろしくご支援ください。

平成六年正月元旦

最近の進学状況

進路指導部より

ここ数年の大学入試は、第二次ベ
ビーブームで受験人口が増大し、ま
れにみる激戦でした。本校も平成二
年度には189名もの浪人を出しま
した。しかし平成四年度から少しづ
つ緩和してきています。生徒の志望
を見ると、四大志望70%、短大志望
30%、就職志望者は数名になってい
ます。受験校の地元志向が強いのも

最近の特色です。また女子の四大志
望が強くなっているのも大きな変化
です。
高校入試も昭和63年、学校群制度
が解体し、平成元年から複合学校群
制度が導入されました。新しい制度
の中で、生徒の進路希望をかなえる
ために努力していかなければと思っ
ています。

資料 進学状況の報告

(1) 最近5年間の進路別実数(現役のみ)

	四年制大学		短大	専修学校等	就職	浪人
	国公立	私立				
平成5年度	27	162	94	28	13	137
平成4年度	29	159	100	29	19	134
平成3年度	24	132	102	23	16	160
平成2年度	25	97	98	39	16	189
平成元年度	30	139	89	32	19	158

(2) 平成5年度大学合格状況

大学名	現役	OB	計	大学名	現役	OB	計	大学名	現役	OB	計
国立大				駒沢大	1	3	4	名城大	38	22	60
静岡大		2	2	芝浦工大		2	2	京産大		4	4
信州大		6	6	中央大	1	5	6	同志社	1	2	3
富山大	1	1	2	東京理大		1	1	同志社女子		3	3
金沢大	1	2	3	日大法政	1	5	6	立命館大	8	5	13
岐阜大	1	3	4	明治大	1	2	2	近畿大	4	3	7
名古屋大	2	1	3	神奈川大	1	1	2	甲南大	3	2	5
愛工大大	4	2	6	愛工大大	1	4	5	短大			
三重大大	2	2	4	愛工大大	26	16	42	名短大	2		2
静岡県大	4	4	8	愛工大大	13	10	23	名医短大	3		3
名古屋市大	1	1	2	愛工大大	16	14	30	名徳短大	21		21
県立大	1	1	2	愛工大大	8		8	金城学院短大	9		9
神戸市外大	2		2	愛工大大	15		15	名城山短大	10		10
私立大				中京大	12	8	20	名短大	15		15
学習院大		1	1	中部大	22	13	35	名女短大	9		9
慶大	1		1	名古屋外大	8	1	9	南山短大	9		9
				南山大	10	10	20				

光 あれ

初代校長 積木 倫一

平成四年十一月、熱田高校四十周年の式典が厳粛にとり行われた翌日、同窓会記念総会が催された。会する者五百有余名、他にその例を見ない盛会は、佐々木会長初め役員たちの努力もさることながら、一同の母校愛・同窓愛の逞しい表現であり、熱気あふれるばかりであった。

昭和二十八年創設された熱田の第一回入学生は僅か百五十名、勉学に運動にとよく励み、後輩たちを導びき、三十一年三月、初の同窓生として卒業した。職員も亦父母の方々と共に創設のことに燃えておられた。

その教育方針として、神宮の啓示のもとに掲げた品格ある人間の啓培、気力ある生活人の培育、健康なる日本人の育成の三項目は、脈々と受けつがれ、四十年の今日、その後の同窓生一同よくこの方針を体して力強く成長、変転する実社会に処して活躍しておられる。この余波がそのまま総会に反響したにちがいない。胸のすく思いであった。

しかしその反面、四十年は長かった。親しく指導願った深谷先生、伊藤先生その他二三の方々、今この世に居られない。また歴代の校長十一名は一人の欠損もなく、現況を誇りとしてきたが、先般七代三輪先生が突然他界せられた。改めて先生方のご冥福をお祈りしてやまない。

と、ここでもう一つの思いは、校庭に生い茂る楠の太木である。創立の

熱田高等学校 40周年



当初、校舎と校庭の間に憩いの緑蔭をと楠と公孫樹の並木を作って、その成長を望んだのであるが、三十四年九月、来襲の猛烈な伊勢湾台風は、堀川のへド口を巻きあげおし寄せて、校舎・校庭の別なく埋めつくし、すべての立木をどろ海になぎ倒してしまつた。ところが奇しくも並木の楠の一本がようやく生き残り、いつか根元からひこばえを出して生長し、熱田と命運を共にして、今日の美事な六幹の太木となつた。うれしい限りである。今の楠はふり返って何を物語るであろう。この熱田のシンボルツリーには未だ固有の名がない。ふさわしい名は何かがあるものであろうか。

先般の式典と総会に列席できるかどうか、八十八才の私には心配でなかつたが、次の五十周年は望むべくもない。第一回生が私の年齢に達する頃には七十周年の式典が来る。同窓の誰もが健康に留意し、その年どしの祭典に大勢出席して、共に歓びをもち上げてもらいたいものである。

こうして森清き熱田の発展と同窓の団結は望なり、力なり、命なりと長く歌いつがれ、実践されて行くにちがいない。同窓会よ、光あれ」と声あげて願うばかりである。

平成五年十二月十五日記

劇団阿修羅を通して

熱田高校に定時制が設立されてはや二九年になります。卒業生数が四〇名ほどの少ない数ですが、二九年の歳月がいまや会員数一、〇〇〇名を越す規模になりました。会員の方それぞれ各々で活躍され、多忙な日々を過ごされておられるようです。

その中で会員の一人である、おはり万造さんと谷口義美さん（定時卒）は、劇団阿修羅の一員として活躍しています。劇団阿修羅は五年前に誕生したばかりの新しい劇団で、東京を中心として活動しています。

昨年2月、名古屋のNBNホールで公演があり、立ち見のするほどの盛況で大成功を納めました。

その成功の背景には多くの同窓生の協力がありました。とくに定一回生から四回生の方々は、忙しい仕事の合間をみつけて連絡をとりあい、パンフレットの配付やチケットの販売など精力的に動きまわり、多くの参加者を集めました。その中でもとりわけ同窓生の参加が多く、また担任の先生方も出席されて、終演後はあちらこちらに話の輪がで、さながら同窓会総会のようにでした。

定時制は前述のように各年度の卒業生が四〇名ほどですから、いかに多くの同窓生が協力したのか理解していただけるのではないのでしょうか。働きながら学ぶという共通の思いが、こうした仲間の努力に対して協力しようという姿勢となって表れているのではないのでしょうか。またこ

うした認識が同期の梓を越えての結びつきにつながっていくのではないのでしょうか。

私は毎年、定時制の同窓会入会式に参加していますが、卒業生の数が少しずつ少なくなっていくことに少し寂しさを感じます。しかし、母校に戻ってこの時期が来ると、今も私たちのときと同じように学校が営まれていると思うとなにか感慨深いものがあります。

私が卒業した二三年前と変わらぬ校舎で、教室で、灯の下で眠い目をこすりながら勉強した四年間の思い出は、時代が違っても共感しあえる何かがあると思います。そしてこれから卒業して同窓会員となる人たちに、活躍する先輩、そしてそれを支援する先輩方がいることを伝え、先輩方との架橋となっていくことが私の努めと考えています。

塩谷典先生御退官祝賀会

二十一年間に渡り、定時制教育にご尽力・ご指導頂いた「エンヤ先生」をお招きして、平成五年五月二十三日退官祝賀会を、有志三十七名が集い、久しぶりの再会を祝し、健康を祝し、夜のふけるのも忘れて近況を語り合いました。





喜びと悲しみ

第二代校長 藤野 源次

熱田高校について、私が最近強く感じた喜びと悲しみを慈に記します。顧みますと熱田を去って二十五年。

最近の大きな喜びは、平成四年秋に開催された熱田高校創立四十周年記念式典、並びに同窓会祝賀記念総会であり、またその何れにも参列の榮

に浴したことであります。校地は拡張され、諸施設が備った中で青春の希望に燃え勉学に励む千三百余の生徒諸君に接したことは一つの感激であり、また背丈位だった校庭の楠が、大層太くなって大きな蔭を落している情景にも深い感慨を覚えました。

私の在職当時は二千余名だった卒業生諸君が、今日では一万六千余名となり、国の内外を問わず、あらゆる分野に亘って素晴らしい活躍をされていくと聞き限りない喜びに浸りました。殊に総会当日数百余名の皆さんを目の辺りにし、親しく交歓できたことは将に欣々雀躍の喜びでした。

激しく変化し、不況下にある今日の社会において今後一層のご健闘とご活躍を切にお祈りするものであります。

このことは余りご存じないと思いますが、熱田高校をなつかしみ、その発展を願う私達は三年前、熱田高校長同窓会とも言える会を持ち、校長に因んで、緑光会と呼んでいます。本年も五月に開きました。何ん

と創立以来の歴代校長が全員参集しました。現校長村本先生(第十一代)から学校の現状を承ったり、また、米寿を迎えられた初代校長積木先生を囲んで、歴代校長十一名が健在で会合出来たことは、大変有難く嬉しい喜びでした。

ところが、大変悲しい出来事が起りました。あのお元氣だった三輪敬一先生(代七代)が、去る十月十一日忽然としてご逝去になりました。先生は昭和三十一年春新任として着任され五ヶ年間、そして教師生活の最後の二ヶ年を校長として勤められました。こよなく熱田高校を愛され、また多くの卒業生諸君から敬慕された三輪先生が亡くなったことは、誠に悲痛の極みです。

なおまた去る六月には、僅か数日間の病気で深谷秀和先生がご死去されました。先生は創立当初より十ヶ年の長い間教頭として、一意専心熱田高校発展のためご尽力下さいました。そのご功績は多大であり、今日なおその面影が偲ばれます。かつて熱田高校で共に勤めました両先生のご逝去は、私にとつて惜んでも惜み切れない、悲しんでも悲しみに切れないものがあります。両先生の御冥福を心よりお祈り申し上げて、筆をおきます。

平成五年十二月十五日日記

先輩へ

バスケット部

私たちバスケット部は、先輩方が築いてきた伝統を守っていくこと、日々頑張っています。昨年、三年生が引退して一・二年生の24人でスタートを切りました。初めの夏の県立大会では、2回戦で名短と当たってしまい、何も残さなまま終わってしまいました。ここから私たちが

大きな目標に向かい、羽ばたき始めたのです。それは、11月にある選抜予選です。私立の強豪の多い中、県大会へ行きたい!というみんなの思いが、ひとつになり始めました。大会が始まり、どんどん勝ち進み、次を勝てば県大会出場という5位決定戦で惜しくも負けてしまいました。1月の新人戦でも、5位決定戦で同じ相手とあたり接戦の末、最後の最後で力尽きて負けてしまいました。先輩の最後の大会では1点差で惨敗し、みんなで泣きました。その悔しさを胸に、先輩の力を借りながらも今年の県立大会、選拔予選で4位に入賞しました。今では先輩が引退し、半分の人数になりましたが、県大会出場という目標を受け継ぎ頑張っています。

これからは先輩方が残して下さったシード権を守るよう、毎日練習に励んでいきたいと思えます。

(文責・39回生 服部佳代)

私たちが吹奏楽部は、現在、一・二

年合わせて六十名程度の部員で活動しています。今年も例年通り四月に、市教育センターにて定期演奏会を行います。日頃の練習の成果を発表しました。また、来年行われる「わかしゃち団体の演奏団体のうちの一枚に選ばれ、本校からは二十名程度の部員が参加することになりました。参加する人だけでなく、部全体で協力し合い、団体に良い演奏ができるよう練習を積み重ねていこうと思っています。

(文責・39回生 畑美誉子)

吹奏楽部

私たちが吹奏楽部は、現在、一・二



伝統を守って!!活躍する吹奏楽部...



1993年版卒業アルバムより 38回生OG

ただ今活躍中!

十六回生

河村 賢次氏

彼は現在放送作家として、東海テレビの「ドラゴンズ・ホットスタジアム」や中京テレビの多くのミニ番組などを製作しています。三年前には、月刊誌CHEEKでご存じの名古屋流行発信社から「カマゾンからの伝言」という本を出しています。来年は愛知県の「わかしゃち国体」の年ですが、その国体の開会式の構成・演出を担当することになっています。

熱高からこのように中部地区に多大な貢献をしている同窓生を排出できたことは、熱高にとって誇りであり、今後のさらなる活躍を期待したいと思います。同窓生の皆さんも是非彼を応援してあげてください。(文責16回生・小倉美津夫)

わかしゃち国体



シャッチー

私の研究室の壁には一枚の大きな、多分アクリルゲルを模した、版画が貼ってあります。二年のとき、美術の時間に十数名の仲間で作ったもので、四半世紀にもなろうとするしるものです。二年で美術というと、当時を知っている人ならいぶかしく思うかも知れません。芸術は一年では音楽か美術、二年では(男子のみ?)書道か音楽を選択するというのが当時の普通のカリキュラムでしたから。

話は一年生のときにさかのぼります。八谷先生を担任とする一年J組(音楽選択のクラスでした)はアット・ホームなクラスで、学年末になってボクを含む一部の生徒はクラスがそのまま二年へスライドされなれないものか、などと思つたものです。

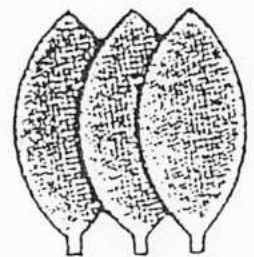
そんなとき思わぬ抜け道がありました。二年にも(本来一年生用の)美術のクラスが一つだけ開かれるというのです。十名ほどの者がツルんで美術を選択したのはいうまでもありません。皆、二年になつても同じクラスになれるものと、内心期待。結果はしかし、少し意外でした。(一年生用の)美術の希望者は全学でも十数名足らずであつたにもかかわらず、二つのクラスへ分散させられてしまったからです。あとで聞いたところでは、

なつかしい思い出

—ボクたちのたくらみ—

南山大学助教授 岡地 稔 (16回生)

章 堂



品格ある人間
気力ある生活人
健康なる日本人

このたくらみが見抜かれ、教育上の配慮から、二つのクラスに離したとのこと。

もつとも二年のクラスもジュリーこと沢田先生のもとで愉快なクラスでしたから、何も策を弄する必要はなかつたわけです。二年の小室先生のクラスもしかり。そんなに明るい高校三年のクラスであるのかと、大学に入つてよく尋ねられたものです。

不純な動機で選択した美術でしたが、今西先生の指導のもとで学年末にみんなで作った版画、これを大切にしないわけにはいきません。よき友、よき先生に恵まれた熱高時代の記念なのですから。

“美術部元祖OB会”

昭和42年赴任の時より15年の長きにわたつて熱田高校の美術教育に多くの足跡を残された今西英雄先生(現推信高校)をかこみ、去る11月21日(日)ルブラ王山にて約10年振りに美術部OB会を開催。

当日は雨にもかかわらず、今西先生御夫妻(恵子夫人・15回生)と当時顧問であつた八谷芳樹先生(現新川高校教頭)はじめ13回生から24回生までのOB50余名の出席をかぞえた。(平均年齢38才)

卒業後は美術方面はもとより、皆今一番の働きざかりで多方面にわたり活躍している様子であつた。

会場は卒業後20年前後経過してはるはずなのに、そこはまさしく木炭と油絵具のにおいがした美術部の部屋そのものだった。帰宅後も、その時間と空間旅行の余韻がほてりとなつて残る数日であつた。

今度は美術部らしくO・B展の復活も望まれている。最後に、今回のOB会の幹事(21回生宮嶋靖規君夫妻)に感謝します。

(文責・14回生 猪子幸生)



創立四十周年記念総会を終えて

感謝状贈呈者

- 第七代校長 三輪敬一 58〜60年
- 第八代校長 木下匡弘 60〜63年
- 第九代校長 日下英之 63〜63年
- 第十代校長 赤松英男 3〜4年

永年勤続表彰者

- 学校医 佐野太伊子(眼科)
- 教職員 (敬称略・順序不同)

- 山田 浩、名郷柴山、加藤親秀、秦 賢吾、小島 暢、二村鉄男、片桐欣也、近藤やす、小川春雄、森 康子、塩谷 典、戸加里妹子、本田光治、岡田 裕、久保キミコ、森本裕康、武藤史子、伊岐見嘉博、鬼頭正信、小川敬子、千種章達、川辺 浩、桂野 正、佐藤重高、加藤哲男、佐藤明夫、外山幸男、青山洋子、小桜 謙、矢田富美子、加藤義明、山田一雄、近藤 肇、林 博之、伊藤明德、田中悠美子、日野博行、岩本真一、足立吉博、西川高志、飯田皖子、大野真知子

同窓会役員

- (平成5年4月1日より)
- 会長 佐々木元彦 (1)
 - 副会長 田中敬二 (2)
 - 豊田正和 (3)
 - 西田和子 (4)
 - 万前秀男 (5)
 - 小林勝治 (6)
 - 藤田英子 (7)
 - 武藤史子 (8)
 - 杉山交世 (9)
 - 大沢利尋 (定6)
 - 今井康幸 (12)
 - 真木伸一 (13)
 - 石田直城 (15)
 - 伊藤武博 (16)
 - 山口直彦 (18)
 - 木村陸秀 (19)
 - 書記 伊藤元雄 (5)
 - 山下富江 (7)
 - 山田周一 (13)
 - 會計 江村雅夫 (4)
 - 小島治夫 (6)
 - 監査 神谷和雄 (15)
 - 近藤かをり (26)
 - 学校幹事 森本裕康 (9)
 - 高岸郁夫 (20)
 - 谷沢伸 (11)
 - 勝野恒光 (11)
 - 川辺浩 (23)
 - 佐藤正人 (13)
 - 西浜久文 (11)



平成五年十一月十五日(日)、午後三時、名古屋国際ホテルの二階全室を会場にして、参加者五〇〇余名の教職員・卒業生が一同に集まり、熱気

あふれる雰囲気のもとで、同窓会総会並びに創立四〇周年記念祝賀会が、難壇の歴代校長の皆様方をとりまいて、司会(田中副会長)の式典次第に従って、来賓祝辞・記念品目録贈呈・永年勤続者表彰と、予定どおり進行し、最後に参加者全員で、声高らかに校歌を斉唱して、とどこおりなく総会・祝賀会を終え、次回の再会を約して終了しました。

この総会・祝賀会を迎えるにあたり、約一年半の準備期間を設け、各種委員会・部会を組織し、延べ何百人かの卒業生のご尽力が必要でした。なかでも、名簿の原稿づくり・募金の要請・広告掲載の要請・同期会開催の準備と、クラス・同期会の幹事の方々のご尽力があつての結果でした。左記の表を掲載させていただきますが、卒年によってかなりの凹凸が生じています。時とともに風化してしまいます。ぜひ卒業十年、卒業二十年などの周年を機会にぜひ同期会を企画してみましよう。

(事務局より)

会員名簿住所判明率・寄付金の集約

全日割	卒年	卒業生数	判明者	寄付人数	金額(万)
1	回	31	159名	133名	39 49.5
2		32	163	131	21 24.0
3		33	262	203	36 40.5
4		34	249	226	44 48.5
5		35	268	239	41 43.0
6		36	272	242	46 55.0
7		37	386	304	47 49.5
8		38	387	275	26 36.5
9		39	365	290	46 55.0
10		40	384	237	15 17.0
11		41	547	314	22 27.0
12		42	598	360	39 49.5
13		43	549	327	28 33.5
14		44	522	261	15 27.0
15		45	491	351	31 43.0
16		46	468	287	19 23.0
17		47	451	298	17 19.5
18		48	447	303	14 16.0
19		49	447	324	16 18.5
20		50	413	279	29 36.5
21		51	451	365	18 18.5
22		52	448	345	16 16.5
23		53	445	373	11 12.0
24		54	446	377	21 22.5
25		55	448	367	17 19.0
26		56	445	402	31 33.5
27		57	447	412	19 20.5
28		58	449	419	22 24.0
29		59	451	404	23 25.5
30		60	449	418	16 20.0
31		61	468	444	22 22.0
32		62	459	433	15 16.5
33		63	468	457	24 25.5
34		元	470	456	17 18.5
35		2	469	461	13 13.5
36		3	462	460	19 22.0
37		4	471	471	20 22.0
全日割計		4,574	42,448	9,115	1,064.0
定時割計		907	702	13	15.5
総計		4,487	41,746	9,128	1,079.5

創立40周年記念行事・事業実行委員会 組織

委員長 佐々木元彦
 副委員長 赤松英男(校長)、佐藤哲寿(P会長)、田中敬二、竹内正巳
 記念行事部会長・吉川洋(P副会長)、記念事業部会長・小林勝治、
 記念誌部会長・加藤秀明(P副会長)、会員名簿部会長・高岸郁夫
 募金部会長・岩淵正憲、祝賀総会部会長・田中敬二

創立40周年記念事業収支報告書

(平成5年2月6日)

収入の部(円)		支出の部(円)	
寄付金 (2,159口)	10,795,000	会員名簿製作費	10,348,905
広告収益 (142件)	4,620,000	記念総会パーティー(国際ホテル)	4,326,679
総会参加費 (355名)	3,670,000	記念総会式典費	995,337
会員名簿売上 (414冊)	2,277,000	熱田高への記念品	3,000,000
40記念誌売上 (176冊)	598,400	事務関係費用	2,023,209
記念事業利息 4年4月-5年2月	18,717	同窓会基金へ繰入れ	1,284,987
合計	21,979,117	合計	21,979,117

★会則の改正について(平成五年四月より)
 一、副会長の増員にともない、規約6条2項の(若干名)を(数名)。
 二、値上げにともない、規約11条入会金四千円を五千円。

同窓短信

—五回生同窓会—

平成五年十一月十四日、名古屋港
湾会館にて、「五回生同窓会」を開催
した。卒業以来三十余年が経ち、そ
の間クラス単位の同級会はあったも
のの五回生全体で同窓会を開いたの
は始めてのことであった。

不明会員の住所調査から始まって
当日の会の企画・運営に至るまで、
その苦勞は大変なものであった。各
クラスの幹事を始め多くの方々が献
身的に動き、成功裏に会を終えるこ
とができた。

当日は、この会を楽しみにされな
がら急逝された三輪敬一先生のご冥
福を祈り、そして会員諸氏の親善を
誓いあった。また、関戸武雄先生、
北川伊男先生、加藤博先生のご尊顔
を拝し心温まるひとときであった。
三十数年の歳月は、会員諸氏の風貌
をあるいは白髪に、あるいは立派な
恰幅にと変えはしたが、話し合うに
つれ、必ずや面影が思い出されてく
るものであった。

出席者は、六十七名と会員総数の
四分の一程度であったが、これを機
会にお互いに呼びかけあい、次回に
はより多くの会員諸氏との再会を誓
いあい散会した。

最後に、本会に多大のご尽力をい
ただいた多くの方々に感謝し、同窓
のありがたさを思いつつ報告とした
い。(文責・五回生 前田亜彦)

—同期会を開催して—

『華の七回生』と呼ばれた私達も、
人生の通過点ではあります。とう
とう五十才の大台を迎えました。何
か心に感じる歳ですね。諸氏におか
れては、それぞれの分野で大いに御
活躍のことと思います。

さて『華の七回生』の同期会は、
平成四年十一月十五日予定どおり、
母校創立四十周年記念総会に引き続
き、栄パルク九階にて、出席者五十
数名、近藤信行・安藤威夫・中川史
良先生の三氏を招いて行いました。

一部のクラスで、直近のクラス会と
重なったため、前回に比べてやや淋
しい感もありましたが、しかし、遠
方からの同窓生もあり、また卒業以
来の再会という人もあり、大いに会
は盛り上り、夜の更けるのも忘れて
語り合い思い出深き一日になりました。

次回の同期会は未定ですが、開催
の折りには是非の参加をお願いしま
す。終りに、創立四十周年総会の開
催にあたり、各クラス幹事の皆様の
御協力・御尽力に対し、紙面をお借
りして心から感謝を申し上げます。

(文責・七回生 山林勝治)

校庭「楠の大木」



版画 今西英雄教諭

寄付者名簿

- (1) 佐々木元彦、山田稔、春田繁子、小野昭、加藤朋子、前田裕彦、前田喜美子、岩田司、服部照雄、西尾剛、前田隆子、堀江洋子、安藤達雄、都築節子、沢田延子、隅田武利、鬼頭達雄、高次、堀田金一、犬飼増弘、東端昌浩、村瀬勝久、伊藤幸正、渡辺美津子、石田正敏、野々垣綱久、池畑亨、渡辺弘道、翠久子、中野美恵子、中山多恵子、天野長子、奥山たか子、芽野文恵、伊藤裕子、大藪才子、佐藤八重子、江崎君江、今枝淑子(2)、沢井美枝枝、本田可子、佐藤玉子、中西静子、橋本奈々子、飯田邦子、大倉美美子、山口美智子、植田照男、熊崎隆久、岩佐美千代、田中一誠、江角直太、沢原文子、寺脇千鶴、荒川基彦、深谷圭一郎、中野道孝、浮所学、田中精二、戸谷新太郎(3)、奥村薫、法信仁子、岩井玲子、古池光生、神村葉子、小畑昌子、平田公子、佐藤功、村松行雄、家田かこ子、今村雅子、村瀬秀子、安田涼子、林徹、小久保吉加、藪谷俊七、久保敏博、永田崇家、加藤千恵子、宮田義恵、岡村清治、濱島邦彦、遠藤同雄、服部凱次、大塚政海、大友和子、森下保代、村上萬里子、和田正嗣、鈴木辰生、大橋昭子、平野舜一、前田浩子、磯部正、岩田嘉一郎、小早川紀子(4)、久賀史郎、羽田野美智子、堀江弘子、岡山敦子、鬼頭幸子、高橋公子、小島慶子、有滝光男、石田辰三、大塚美子、村松寿恵子、小見善吉、志水美智子、佐藤鶴代、佐藤昭子、富田光子、高塚佳江、浅井多恵子、二村紀子、江村雅夫、小笠原澄江、西村英子、田島タミ子、伊藤喜代子、名倉厚子、福田紀代子、大参武子、杉本文代、大飼賢、鈴木武子、山口徳良、牧野三三、高山文子、岡田紘次、浜島広元、山下護祐、大嶋鏡一、田中省三、岡田弘、高岸清春、西川博、宇佐美種義、鈴木淑子、銀田弘子(5)、羽田野節子、巻木日出子、伊東峰子、岡米子、水谷量子、鈴木国茂、森田清司、西田和子、東通子、羽木哲三、堀井雅子、太田康弘、鏡味玉枝、野辺美智栄、水谷恒子、大澤正子、木下功、石井嘉子、安藤元、岩沙鐘造、青山朋子、稲垣頼、大森吉見、福田博子、柴田雅子、斎藤哲、岡本佳子、長谷川清弘、沢宏爾、斎藤健、大村雅勇、恒川昭三、佐藤英明、戸田鎮子、岡田浩敬、長谷教子、前田亜彦、大河内順子、西山紀代、榎本輝、住田智也(6)、野々山薫、岩田則子、野村順子、佐々木史子、足立典子、岩島礼子、金子美津子、中谷孝子、林桃子、赤地弘子、綱島千恵子、堀勲夫、玉津厚子、吉村明人、横井文子、秋元忠雄、加藤佳明、田辺孝子、万前秀男、浅野恵美子、西川章、河合聖二、西本安範、安達裕子、小島美鈴子、小林富美子、久納英司、小島治夫、服部英男、三輪金夫、佐藤幸子、中山智雄、根津順子、岡邊輝雄、伊藤幸子、角田美智子、北河清子、福山短子、山賀信子、安藤正治、三浦功、能祖博、近藤廣、彦坂正昭、押村興治、水野勝利(7)、加藤繁子、水原美智子、山下富江、早川保子、徳田俊子、山本久美子、祖父江征代、伊藤昌子、山田敏子、天野澄枝、竜沢潤子、久納喜洋子、鈴木かつ江、渡辺明美、大矢俊子、津村和子、安井教夫、平松祥子、森健吉、加藤信義、川口靖江、水谷正男、上野可宏、山内容正、山中英晴、高木力、飯田雅久、船橋千鶴子、西秀樹、加藤隆一、深沢友達、鈴木秀和、加藤不二夫、石黒威夫、岩川和夫、神宮治美、小勝勝治、松原良彦、山田絃子、鬼頭作治、大槻達也、吉田潤子、三浦良博、木村治恵、村田全啓、吉田孝二、省名茂信(8)、長谷川泰雄、上月一、山森豊治、浜田希子、加藤恭子、亀田壽子、朝日博子、藤村学、菅原喜代子、横井靖人、郡司洋子、広田義親、大島美津代、磯部稔、加納昌武、近藤宗廣、佐藤正光、西川隆三、菱田陽次、田中孝臣、野村隆夫、大脇始、奥村浩章、森加義弘、船橋博子、海老君恵(9)、馬野とも子、水野節子、二村玲子、加藤芳子、小島鑑逸、小坂井利明、梅田郁代、原照生、山下光子、大倉澄子、小栗義男、水野修、丹羽知子、鈴木晃、川口啓、山添昌之、林孝治、酒井敏雄、坂野大義、奥村哲人、壁谷復敏、芳田建治、山田芳和、飯田勝比古、須原信弘、蜂須賀聡太、村上誠、蛭川健治、野村弘之、河合和、彦坂洋子、深水信子、鏡味幸治郎、平田良子、芝山重哉、三輪初子、横山宏昭、田島義文、千田芳枝、禁崎秀也、武井恵美子、豊吉雅信、青山満、久田恵、福富孝子、安藤一美(10)、手島富美子、馬場吾郎、原田浩吉、梶浦好弘、丹羽絹子、鳥山章之、安田和男、杉山交世、大原秀子、伊藤喜啓、深谷正郷、西川好子、平敷道子、森瀬泰年、野村京子(11)、津田由美、水野淳子、神谷一巳、岡出弘子、森下直美、渡辺邦彦、加藤靖男、磯部伸子、竹上ヒトミ、乾さやか、浜田洋一、堀部

守康、滝本美恵子、林玲子、中村日出夫、加藤勝正、服部政一、後藤行光、三宅幸男、後藤宏、藤原博道、近藤好文(12)、光岡訓子、杉原悦子、小木曾千恵子、河原鈴江、吉田三枝子、富田孝博、戸部恭紀、松井悦子、鈴木久子、下浦立子、今井康幸、森貴美代、森勇一、三井文子、立野久佳、福岡隆、後藤光博、久野悦生、森田文二、浅野俊一、内山博行、船橋舞賀雄、服部泰子、河津民男、服部千春、櫻井洋司、高倉由美、渡辺京子、吉川明美、福田幸一、坪井明美、斎藤勇基、中井顕成、野崎和博、土橋進、種村光一、水野洋一、芳賀直美、鬼頭博(13)、大橋美知子、大塚愛子、河上とし江、牧野裕美、水野幹雄、柳瀬政子、竹内正子、鈴木あけみ、橋本道夫、松原夏樹、白石順子、福田恵子、堤吉郎、浅野一、真木伸一、河村海男、鬼頭文雄、水野隆司、櫻井梅仁、佐藤盛正、高波武司、野村治嗣、山田雅章、村瀬源市、山田周一、木村真一、井野文雄、寺本孝(14)、谷照代、加藤兼廣、高村ひと美、猪子幸生、今井信幸、富田隆行、植田勝美、高梨泰子、鬼頭正人、土方慶、山田敏照、今井正博、北宮顯人、野崎誠(15)、上村恭弘、島本守、市野明行、久納修治、浦城武善、西山政孝、首藤節子、近藤直弥、林幸春、上島千絵、佐藤典昭、山川克彦、毛受英彦、本部則夫、内藤守、荒川恭一、村上たす子、野口恵子、沢田雅男、田嶋晴次、西川真澄、坂口美代子、加藤道子、山内幹夫、太田千栄子、大橋勝仁、西尾保明、大岩香代子、伊藤大英、小坂多津子、西山栄味子(16)、岩瀬利真、吉永明弘、斎藤哲也、大島邦芳、猪飼晴雄、斎藤津菜、角龍彦、橋本悦子、貝谷嘉彦、今木敏雄、藤田広志、藤田昇、牧克己、加藤伸広、近藤龍夫、林芳樹、加藤昭、中島隆嗣、高山賢一(17)、吉田光男、山田宏、星野博史、加藤忠一、林芳樹、横地美代子、森下敏夫、岩瀬香織、加藤博子、西川里子、福本哲人、宮内敏孝、伊藤拓、大谷邦子、片野和美、宇佐美泉、石田登代子(18)、中村高士、小山誠一、橋本孝之、河村誠、長谷川泰彦、後藤敏行、広船吉之、鶴飼雅信、松岡正和、井上正也、澤木美雪、橋原品恵、豊場佳子、井上利之(19)、瀧敏夫、坂本正剛、出原元理、土方茂、氏原直樹、内田正勝、宇津野明彦、北原健一、荒川弘美、生川郁子、鈴木宗樹、山内典子、林泉、東

益子、古田博夫、金岩正和(20)、後藤真一、浜本俊夫、福岡隆、松崎道夫、秋田光昭、近藤廉仁、浅井武、大月一史、加藤智司、飯田昌之、高木篤、相良雅司、伊藤茂行、高見一成、加納誠、萩須敏夫、伊藤真千代、田中伸介、貝沼朗史、紙屋悦子、上家千賀子、鈴木康子、坂田広志、犬飼孝智、原田美恵、大矢高義、江坂文恵(21)、加藤成、溝口達雄、立部悟、服部郁夫、加田善裕、太田勉、佐藤和雄、下野よしえ、早川寿一、岩田広美、船橋宏行、石川謙一郎、堀田志子、堀山開香(22)、高井照、浅野豊志、安井たまみ、鈴木康之、安藤正康、犬飼孝司、大池高士、山田文在、本多恭久、西川和幸、市川瑞恵、山本正洋、国枝裕、川崎一恵、余郷裕次、石川智子(23)、山田晃夫、鍋田智雄、阪野忍、橋本智巳、柴田一枝、渡辺富夫、山田八郎、小林扶佐子、石原一也、富田孝治郎、戸田広直(24)、河田浩一、桐橋浩之、飯田裕之、服部徳一、山本芳樹、鈴木毅、井上義英、中西基嘉、柳井美枝子、須原清成、池田智子、中島橋、山桂子、高濱全也、岡部和代、相馬ひとみ、酒井真治、宮西俊雄、工藤貴子、神野悦子、山崎美与(25)、鈴川昭一、柏谷暢紀、鈴木孝志、黒野幸治、久田孝光、林早苗、安井裕徳、池松宣浩、山本昭夫、早川義規、宮本誠一、住田祐子、早坂和哉、小原祥子、山本一宏、村瀬三浩、杉野芳孝(26)、小島朱美、近藤伸一、浜中浩章、島山克也、平子晴、鶴見恵、大野淳史、栗田守、志水利宏、伊藤直樹、森部直、高野一貴、後藤浩明、金田茂樹、竹内利夫、田嶋範子、岡田知子、西川美佐江、佐々木誠高、高木さつき、木辺智子、安倍由枝、花田和幸、堀洋一、北浦典子、竹内真奈美、長尾浩之、松岡宏、櫻井しのぶ、河柳英代子、久野幸子(27)、石原和幸、水山宏寿、佐々木元康、小島敏、菊地辰夫、斎藤真治、安井文規、勝水電史、杉本喜信、大澤保英、沢村正幸、崎山裕子、水谷光史、宮本仁美、岡野利昭、大塚隆一郎、岡戸信晴、平岩ひとみ、服部民恵(28)、深谷成雄、水野英宏、星辰也、柳幸宏、安藤雅彦、柴田勉、野村真一、馬越進、成田清康、伊藤孝明、磯博文、田村克己(29)、山本相宏、山口智、稲垣裕子、荒木智弘、吉江輝久、坪井孝徳、森好夫、伊藤真美、山田工、本多晃

一(29)山口義則、加藤誠、中井哲介、山守浩司、幸村章司、長崎治、今村利忠、丹羽直尚、山本武志、坪井重治、浜中忠、成田裕香、酒井慎二、伊藤嘉雄、水谷あゆみ、深津純子、天野和彦、鬼頭京子、林雅代、高倉富士江、松山知江美、村山卓也、山田賢一郎(30)、浅野忠彦、田中衛、川口航、佐藤幸俊、浅井正、後藤洋範、横田真由美、酒井知子、稲葉正文、早川龍哉、櫻井佳子、近藤智彦、大崎和也、赤塚雅子、安藤誠、森さつき(31)、山内洋平、犬飼隆義、石塚友和、西原和宏、所靖人、朝倉敏幸、小島亮一、兵衛利幸、加藤和茂、西川隆、富士和之、山本政広、水野誠二、東野美恵子、伊藤維康、橋本浩司、杉井俊夫、矢島洋幸、彦坂未美、山本幸俊、安藤静之、服部清二(32)、山本芳彦、高田克己、伊東千貴、有松徹也、大須賀均、田中成和、安積健太郎、前川滋美、林徳子、長谷川久美子、太田舞美代、板倉進、狩野雄治、平林浩、白井有美枝(33)、山中紳裕、成瀬博司、鹿野成朗、後藤一洋、青山佳嗣、原田和佳、沢田和宏、長浜秀長、中村繁和、伊藤あさみ、浅田美紀、斎藤礼子、渡辺正道、西尾武史、才賀英穂、加藤亮一、水野雅美、堀沢暁生、山辺康夫、安井保雄、犬飼友裕、富田直孝、河田裕司、津田容子(34)、関口実、富田真仁、飯川敏規、古澤真司、早川武志、田尾静子、伊藤裕之、吉岡岳延、犬塚篤実、阿部直茂、伊藤美友希、森川正和、山田葉子、山中匡、松原緑、齊藤真美、浅井由希子(35)、末房崇志、山田好徳、阿知波貴久、大沼隆、浅井宗雄、服部貞典、寺島安彦、石川知宏、伊藤徳幸、吉川孝清、齋藤徳広、中村早智、原園理映(36)、森川泰行、河田則夫、高為嗣、山上弘、恒川英司、伊藤文一、大賀敏、犬飼弘章、和出真、緒方美作、新井結香子、大野泰子、福永照久、金子悦美、森和子、下地理男、早川透、西尾理奈、金田裕子(37)、河合尚二、二村洋一、大橋孝治、吉田真大、板津亮、伊東亮、柴田由美子、吉田達也、伊藤健二、藤田あずさ、楠田彰、飯田幸弘、神達慎治、横井恵子、本田芳子、谷口由子(定)、鈴木喜美、西浜久文、川森秀秀、登直人、夏山由紀、加藤博枝、伊藤嘉修、市野とよ子、後藤文方、鈴木寛広、鈴木敏子、笹山忠義、大沢利尚(敬称略)

計 報

深谷 秀和教頭	平5・6・11
三輪 敬一校長	平5・10・11
25回5 浅野 正美	平5・11・23
1回B 大口 勝正	平5・12・18

ご逝去に接し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。 (係より)

事務局だより

★会員名簿の販売について、残部が百冊あります。ご希望の方は、現金普留で五千五百円(送料込)を同封のうえ申込み下さい。

★同窓会報五号の発行は、九月下旬頃の子定です。同窓短信・催し物の予定などの原稿を、二百字以内でお寄せ下さい。

七月末日締切りです。

★題字は、古希を迎えられた初代書道教諭・名郷柴山先生にお願いいたしましたが大変心良くお引き受けいただきました。先生にあつては、ご健康にご活躍で、現在も『万葉歌』の創作に力を入れておられます。

会報基金の募集

同窓会総会でご案内申し上げましたが、会報の復活を計り、一層の情報を皆様にお知らせします。しかし、毎号全会員へお届けすると良いのですが、全員配布の費用を約三百万必要とします。そこで、四号は全会員へ送付しますが、五号より会報基金へご協力いただいた会員と幹事会員へ送付の予定です。

基金は、同封の郵便振替用紙で年額千円を納入ください。